

場所・面積 神奈川県横浜市、0.19ha

- 管理目的**
- ・地域の生物多様性保全や景観整備への貢献の場とすること。
 - ・来場者の憩いの場や環境教育の場とすること。
 - ・自生する希少種を中心に、生育環境を保全すること。

サイト概要 当サイトは神奈川県横浜市の京浜臨海部に位置する、常緑高木を主体とした工場緑地である。

緑地の一部は在来種を主体とした植栽起源の草地があり、そこには路傍や林縁などにみられる身近な在来種が生育している。

緑地には希少な植物が生育しており、その保全活動に取り組んでいる。



土地利用の変遷 100年以上前に造成された埋立地に、1916年に前身となる旭硝子鶴見（京浜）工場が操業を開始した。緑地は、1980年頃に植栽されたものである。

サイト周辺の環境 当サイトは鶴見川河口部の埋立地に広がる京浜工業地帯に位置する。北側にはJR鶴見線と遊歩道（トンボみち）がある。

- アピールポイント**
- ・希少な植物が自生し、地域の生物多様性保全へ貢献している。
 - ・敷地外の緑地沿いに遊歩道があり、散策時に観察できる。
 - ・従業員による保全活動や、従業員、その他場内で働く協力会社対象の鑑賞会が開催されている。

生物多様性の価値

価値（4）生態系サービスの提供の場であって、在来種を中心とした多様な動植物種からなる健全な生態系が存する場

【場の概況】

当サイトは京浜工業地帯に位置する埋立地で、約40年前に植栽された工場敷地の外構緑地である。工場周辺の環境保全や景観整備に寄与するほか、従業員の憩いの場や環境教育の場とされている。

【主な植生】

工場の緩衝緑地としての役割から、主にスダジイ、アラカシ、シラカシ等の常緑高木が植栽されている。また林縁部には、地域の生態系に配慮してチガヤ、ホタルブクロ等の地域性種苗（関東地方産）を植栽した草地があり、そこにはキランソウやハハコグサ、オニタビラコなどの身近な在来種が生育している。

【確認された主な動植物】

確認された主な在来種は、以下のとおりである。

- ・動物：ヒキガエル類（成体）、シオカラトンボ（成虫）、ミンミンゼミ（成虫）
- ・植物：スギナ、カニクサ、イノモトソウ、イヌワラビ、シロダモ、スズメノヤリ、マスクサ、ススキ、アズマネザサ、ヒエガエリ、アオツツラフジ、エビヅル、ネコハギ、エノキ、マンリョウ、ギンリョウソウ、アオキ、キランソウ、イヌコウジュ、イヌツゲ、ノゲシ



写真の撮影年月：2022年8月3日

写真の説明：常緑高木の植栽とチガヤ植栽



写真の撮影年月：2023年4月14日

写真の説明：キランソウ

生物多様性の価値

価値（6）希少な動植物種が生息生育している場あるいは生息生育している可能性が高い場

【場の概況】

当サイトは京浜工業地帯に位置する埋立地で、約40年前に植栽された工場敷地の外構緑地である。工場周辺の環境保全や景観整備に寄与するほか、従業員の憩いの場や環境教育の場とされている。

【確認された希少種】

- ・ 自生株：現時点では、環境省レッドリストや神奈川県レッドリストにおける絶滅危惧種の植物2種が生息している。この場所で初めて確認されたのは、2014年からであり、その後も継続的に確認されている。このほか、「横浜の植物」（横浜植物会編，2003）において絶滅の危機があるとされたギンリョウソウ（銀竜草、学名：Monotropastrum humile）も確認された（2022年5月フロラ調査実施時に発見）。
- ・ 移植株：緑地の一部は津波等の災害対策強化のため擁壁工事を行っており、工事箇所が生息していた希少な植物は事前に同緑地内に移植した（2021年5月）。両種とも結実の様子はみられたが、不稔のものもあり、繁殖の有無は不明である。



写真の撮影年月：2022年5月30日

写真の説明：ギンリョウソウ

サイトの管理計画・モニタリング計画

管理計画の内容	モニタリング計画の内容
<p>【管理計画の内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・希少種および外構緑地の維持管理活動として、管理会社による定期的な草刈りを実施している。これにより、他の植物の生育を阻害するアズマネザサやクズ等の繁茂を防いでいる。このほか、カシノナガキクイムシの防除対策も計画している。 ・保全メンバーによる定期的(1回/月)な保全活動として、外来種(トウネズミモチ、メリケンカルカヤ、メマツヨイグサ、セイタカアワダチソウ等)の除去や、ラン鑑賞区画の管理等を実施している。 ・外部コンサルタントによる定期的(1回/月)な巡回を実施し、提言を行っている。提言内容は管理者・管理会社等の関係者に広く共有することにより、長期的かつ安定的な管理体制を構築している。 	<p>【モニタリング対象】</p> <p>希少な植物 緑地内のその他植物 動物類</p> <p>【モニタリング場所】</p> <p>外構緑地</p> <p>【モニタリング手法】</p> <p>希少な植物の個体数カウント フロラ調査</p> <p>【実施時期及び頻度】</p> <p>毎年4月下旬(希少な植物のカウント) 毎年の春季、夏季、秋季(フロラ調査) 動物は、23年度中に協議し実施する予定</p> <p>【実施体制】</p> <p>管理者 株式会社フジタ(一級造園施工管理技士等有資格者) 株式会社緑生研究所(生物分類技能検定1級等有資格者)</p>